

# 熊本県

## 熊本市・益城町

村田 良太 (総務部)



### 担当業務の内容

私は、東京都からの職員派遣要請により、被災建築物応急危険度判定業務を行うために熊本に行っていました。応急危険度判定とは、地震で被害を受けた建物がその後の余震等により倒壊する可能性や、瓦などの落下や塀の転倒などの危険性の有無を調査して、その結果をお知らせすることで、その後の被害拡大を防止することを目的としています。

担当した地域は熊本市内及び上益城郡益城町で、判定業務は4月26日～28日の3日間行いました。東京都からは区市合わせて50人が第二陣として派遣され、現地では二人一組で業務にあたりました。場所や建物の状況によって変わりますが、1日5件～20件程度の判定を行い、3日間で東京都として総数748件の判定を行っていました。

### 苦労したこと

折り悪く雨の降る日が多く、作業効率が落ちてしまったことが一番大変でした。業務は建物をチェックしながら判定表を記載し、その結果もって判定票と呼ばれる赤黄緑の紙を貼るのですが、雨で判定表が濡れてしまうので画板にビニールをかぶせながら作業を行ったりしました。

また、雨が降るので合羽を着て作業を行いましたが、この時期にしては暑く湿度が高かったため、雨に濡れたように汗をかいてしまい、この点でも苦労しました。

### 印象的なエピソード

印象として残っているのは、やはり市民の皆様にご歓迎いただいたことです。被害の状況はさまざまでしたが、皆様不便な生活を余儀なく強いられていたと思います。そのような中でも皆様からは「遠くから熊本まで来てくれてありがとう」とのお言葉を頂きました。余震が続く中で、不安な気持ちで過ごされている方たちに逆に気を使わせてしまったことに恐縮しつつも、皆様の助けになれたことを実感でき、とても嬉しく思いました。

### 所感

応急危険度判定員は東京都防災ボランティアに登録をしており、要請を受けて被災地に出向き、判定業務を行います。私は今回初めて判定業務に従事しましたが、この3日間で判定業務の重要性を改めて認識しましたし、また貴重な経験をさせていただきました。この業務はボランティアを含む復興ための支援を行う前段として、迅速な対応が求められます。そのためには平時の準備及び体制づくりが欠かせません。私の今回の経験をフィードバックすることで、稲城市の体制づくりに少しでも寄与できれば嬉しく思います。最後に、熊本派遣に際しご尽力いただいた皆様へ感謝を申し上げますとともに、被災地の一日でも早い復興を祈念しつつ、今回の報告を終わらせていただきます。

